

設問

42分間使用

【問い1】

全体の50%の質問がわかるか

- 1) 酒井さんは検査装置を作る会社で設計をしているのでしょ。そのお仕事をしていて、どうですか？
- 2) リートが良い所と悪い所を使い分けてくれば良いと思われるのでしょ。使い分けるといのは？
- 3) 何もかんでもリートでやろうと思われないかい。何でもかんでもというの？
- 4) テラワークがはじまる前までの連携はどうでしたか？ → 同様の連携をとるのは難しいのでしょ
- 5) 現場の声というの？ → なぜ現場の声を聞いてくれないのかというの？
- 6) 酒井さんはおんなじと思ってるはずと思われるのでしょ。なぜおんなじと思われるのでしょうか？

【問い2】

良かった点

事例ⅠのCCt10 (相応しい・相応しくない)

理由: 感情に焦点を当てて問いかけをしようと思、序盤は思う様の問いかけができていたのが良かった。後半で、CLの感じているテラワークの連携のとらえ方の部分に対する気持ちの話をした点も良かった。

悪かった点

事例ⅡのCCt11 (相応しい・相応しくない)

理由: 焦点のあて方で、今のお仕事へのCLの思いや、可べんをリートしようとしている事に対するCLの不満を深掘りできておらず、CLが話したいと思っている事をたくさん聞く事ができていない点。

【問い3】

主訴

CLはテラワークの連携のとらえ方に不満を持っている。そこから話を伺っていくと、業務の可べんをリートで行う事について無理だと思、周りと共有できない、現場の声を聞いてくれない、という思いから不満を感じていると思われる。現場の声として、可べんの業務をリートで行う事は、連携のとらえ方から難しいという声を会社に伝えていたのに、不満として抱え、働きづらいと思、ている点が現時点で主訴と思われる。

【問い4】

今後の対応

この後は、テラワークの連携のとらえ方や、現場の声を聞いてくれないと感じる現状について、互に疑念を伺い信頼関係を構築していく。そして、連携のとらえ方の部分を深掘りし、非対称なコミュニケーションで生じている問題を明確にしていく。明確になった問題を現場の声として、会社に伝えるために、今CLが話せる事は何かあるかを一緒に考えていく。また、リートになった事でのメリットは、遠隔の方の会議によって以外に、何かあるかどうかが変わってきた。そして、CLが現在抱えているテラワークに対する不満が解消され、今後、うまく連携をとらえながら前向きに仕事に取り組める事ができるよう支援。